

テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和3年度 自己点検・自己評価報告書

— 令和2年度分 —

令和3年11月

学校法人 伊東学園
テクノ・ホルティ園芸専門学校

学校法人 伊東学園 テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和3年度（令和2年度分） 自己点検・自己評価

平成19年に改正された学校教育法及び学校教育法施行規則により、専修学校・各種学校においては「自己評価の実施と評価結果の公表が義務化」され「学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化」された。これに伴い本学でも、より教育の質を高め、社会から信頼される学校を目指し、自己点検評価内容の公表を行うこととした。点検は、文部科学省のガイドラインを参考に10項目について行った。

学校法人 伊東学園 テクノ・ホルティ園芸専門学校
自己点検・自己評価委員

委員長	理事長・校長 伊東 政信
委員	相談役 柴田 潔
	教務部長 古谷 民子
	花き生産コース コース長、農場長 萩原 文雄
	フラワーコーディネートコース コース長 柿沼 真吾
	造園コース 副コース長 細井 薫
	総務主任 小林 淳子

1.学校の教育目標

教育目標(育て上げようとする人物像)

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることでできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ◇学生の夢や希望をかなえるために全力を尽くすこと
- ◇より魅力的で、実戦的な教育を行うべく、研究・研鑽を怠らないこと

<学生の学力などの低下がみられるため、充分に対処すること>

- ・コミュニケーション能力、基礎学力の向上を図ること
- ・卒業後の目標が不確かな学生に対しては、根気よく指導を続けること
- ・保護者とのより積極的な連携を図ること

<卒業後の進路の拡大を図ること>

- ・野菜生産コースの就職先を積極的に開拓すること
- ・同様に、全コースの就職先をさらに提供するために、卒業生や既存の企業とのつながりを太くし、同時に新規企業を開拓すること
- ・教育課程編成委員からの意見や示唆を基にして、企業が求める人材育成を図ると同時に、新たな分野の開拓を行っていくこと

<卒業生に対する支援を充実させること>

- ・卒業後に役に立つような講座の開講などを考えること

<全教職員が分け隔てなく学生募集に協力すること>

<財務基盤をより安定させるために、教職員自らが関心を払うこと>

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	○				
2	学校の特色はなにか		○			
3	学校の将来構想を抱いているか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学校の理念・目的・育成人材像は定められており、学校の特色もパンフレットやホームページを通じて外部にも発信している。

②今後の改善方策

教育理念・目標については、全教職員が共通理解のもと、日々の業務にあたる必要がある。
また、入学希望者、在学生や保護者に対しても、効果的な媒体を使用し、今以上に周知できるとよい。
学校の将来構想がより明確になるとよい。

③特記事項

(2)学校運営

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	運営方針は定められているか		○			
2	事業計画は定められているか		○			
3	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか			○		
4	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか		○			
5	意思決定システムは確立されているか			○		
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか				○	

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

運営方針や事業計画は定められているが、必ずしも全教職員に浸透していると言いきれない。
また、中長期事業計画が明確になっていないきらいがある。
人事等の制度や意思決定の流れなどは整備されている。
情報システムについては、最新のものとは言いきれない。

②今後の改善方策

運営方針・事業計画について積極的に意見を述べ、結果として今以上に素晴らしい教育体へと進めていく。同時に、学校運営に関する事項については全教職員で共有していく。
情報システム化に関しては、現時点では予算等の面からすぐには実行することは難しいが、可能な範囲で少しずつ進めていく。
人事や賃金だけでなく、研修や資格取得などの教職員の研鑽の結果を反映できるようなシステムを構築したい。

③特記事項

--

(3)教育活動

評価項目	点検の進み具合※				
	5	4	3	2	1
1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	○				
2 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか		○			
3 カリキュラムは体系的に編成されているか	○				
4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	○				
5 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか		○			
6 授業評価の実施・評価体制はあるか				○	
7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		○			
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか		○			
9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	○				
10 資格取得の指導体制はあるか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

授業評価の実施・評価については、まだ体制が整っていない(口頭での聞き取りによる情報収集はある)。

一部のコースでは新規講師の開拓がここ数年活発に行われていない。

外部からの職業教育への評価については、教育課程編成委員会の開催によって行っている。

成績評価等の基準は明確に示されている。

資格取得についての指導体制はおおむね整っており、高い水準で合格率を維持している。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、短縮授業を行った。

②今後の改善方策

授業評価の実施・評価体制については定期的なアンケートの実施などを通じて整えて、専任教員の授業から導入していく。

就職した際に求められるスキル、専門学校としての指導レベルを考慮しながら、今以上のカリキュラムの充実や新規の講師の開拓が必要である

教育課程編成委員会での外部からの評価は、カリキュラムの編成にあたり、可能な範囲で活用しつつある状況なので、引き続き継続していく。

令和2年2月頃より始まった新型コロナウイルスの感染拡大により、短縮授業の実施、行事の縮小など制約が多かったが、そのような状況でも学習の機会を損なわないような方策の実施が必要である。

③特記事項

--

(4)教育成果

評価項目	点検の進み具合※				
	5	4	3	2	1
1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	○				
2 資格取得率の向上が図られているか	○				
3 退学率の低減が図られているか		○			
4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか		○			

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

年度によって若干の変動はあるが、就職率、資格取得率については高水準を保っている。ただし、新型コロナウイルスの影響で、一部職種においては求人数が減少した。退学率は年間10%未満で推移しているが、若干減少傾向にあった。入学後の早い時期から遅刻・欠席が目立つ学生や、授業が進むにつれ、学習意欲が低下してくる学生が増える傾向がみられる。

在学生と比較すると卒業生の活躍を把握しきれていない部分が多い。

新型コロナウイルス感染の影響で、例年実施していた資格試験が中止になったり、年2回の試験が1回になるなどの不都合が生じた。

②今後の改善方策

就職率、資格取得率は数字だけでなく、積極的な企業開拓や取得させる資格の取捨選択を行い、質の向上を図っていく必要がある。

新型コロナウイルスの影響により、分野によっては求人減になることもあるため、求人先の開拓にも一層注力する必要がある。

退学の防止については、入学生の希望と本校の教育内容とのミスマッチを防ぐ取り組みや、担当教員との面談、担当教員以外の教職員のフォロー、同時に保護者との連携を密にすることで一層の低減を図っていく。カウンセラーの雇用は検討しているものの、運用方法などでまだ実施できていない。

卒業生の活躍もSNSなどを通じて把握するように引き続き努める。

資格試験の実施の有無は主催者側で決定することであるが、資格取得はスキルやモチベーションの向上につながるので、引き続き注力する。

③特記事項

--

(5)学生支援

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	○				
2	学生相談に関する体制は整備されているか	○				
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		○			
4	学生の健康管理を担う組織体制があるか		○			
5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか		○			
6	学生の生活環境への支援は行われているか			○		
7	保護者と適切に連携しているか		○			
8	卒業生への支援体制はあるか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

担任、コース担当教員が普段から面談等を通じて様々な相談を受け、対応している。
 学費等の納入に関しては、具体的な相談がなされた場合は個別に対応している。
 健康診断は実施しているが、校医を常駐させていない。
 一人暮らしをしている学生に対しては、担任やコース担任教員の働きかけはあるが、全校的な支援体制はなされていない。
 保護者に対しては、入学式当日の保護者会と2年次の学費納入の連絡の際に行事や就職活動に関する情報を提供している他、就学状況に問題があった場合には個々に保護者と面談を行っている。
 新型コロナウイルス感染予防対策として、登校時の検温、手洗い、消毒、黙食の励行、授業時の密の回避、スクールバスの増便などを行い感染防止に努めた。

②今後の改善方策

学生の生活支援などを担う学生部のような組織を、志願制で設けられるとよい。
 校医を常駐させるほどの学校規模ではないが、医療機関との連携を密にし、スクールカウンセラーなどの導入を検討する必要があるが、導入の仕組みを検討しなければならない。
 保護者連携は、現在入学時に行なっている保護者会を、2年次への進級の際にも実施すると同時に、平素の学校生活や行事等への取り組みなどを簡易な保護者通信などで発信するなどを試みる必要がある。
 卒業生に対しての支援体制はまだ確立できていないため、同窓会組織を整備すると同時に、資格取得や特別授業への参加を促していくようにしたい。
 令和2年度は極力対面授業を実施し、登校させるようにしていたため、周囲とのつながりが絶たれることによる精神的なダメージを受けている学生はほぼみられなかったが、今後リモート授業の増加などによっては精神面でのケアに注意する必要があるかもしれない。
 校内での不慮の事態に備えて、教職員だけでなく学生にもAEDの使用法、毒を持つ生物への対処、熱中症対策などを指導できるとよい。

③特記事項

--

(6)教育環境

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか		○			
2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	○				
3	防災に対する体制は整備されているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

若干の施設・設備の老朽化がみられるが、可能な限り修繕している。
また、最新の農業機械などへの取り組みがまだ不十分であるが、少しずつ整備は進めている。

②今後の改善方策

細かい部分での修繕は、引き続き可能な範囲で対応していく。
一方、教育設備や農場施設などは、引き続き計画的に更新していく他、最新の農業機械については導入は難しいが、展示会等を通じて学生には知らせていく。

③特記事項

--

(7)学生の募集と受け入れ

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学生募集活動は適正に行われているか	○				
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	○				
3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか	○				
4	学生納付金は妥当なものとなっているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学生募集については募集要項に基づき適正に行われているが、令和3年度入学生は47名となり、前年比の10名減となった。
新型コロナウイルスの影響により、従来の来校型のオープンキャンパスに加え、オンラインでのオープンキャンパスも実施した。

②今後の改善方策

学生募集に必要な教育成果については、カリキュラムや就職実績等について、より魅力あるものを提供していく必要があり、このためには教務との連携が欠かせない。また、農場設備等についてもより魅力あるものにしなければならない。
来校せずとも本校の魅力が伝わるよう、Instagram等のSNSの効果的な活用方法を検討していく必要がある。

③特記事項

--

(8)財務

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか			○		
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		○			
3	財務について会計監査が適正に行われているか	○				
4	財務情報公開の体制整備はできているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

令和3年度入学生は47名と前年比10名減となったため、まだ財務基盤が中長期的に安定しているとは言い難い。

②今後の改善方策

財務基盤の安定を図るための中心となるのは学生数である。
よって、学生数を増やすために、学生の夢や希望をかなえることができる魅力あるカリキュラム、充実した就職実績などに引き続き注力しなければならない。
日本全体で若年者の人口減がみられるが、その中でも学生を集めなければいけない状況にあるため、現状の募集活動に加えイベントの参加など少しでも学校の存在そのものをアピールする必要がある。
収入としてはわずかであるが、企業や団体とのタイアップで、販売の機会を設けたり、資材の提供を受けるなども考える余地があるかもしれない。

③特記事項

--

(9)法令等の遵守

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	○				
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか			○		
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか			○		
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

自己点検・自己評価で把握した問題点については、都度改善策を講じているが、一進一退といった状況である。

②今後の改善方策

自己点検・自己評価の結果を全教職員が共通で認識・共有し、全校的な取り組みへとつなげることが必要である。

③特記事項

(10)社会貢献

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	○				
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		○			
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

地域の住民を対象とした講座や小学生への講座、特別養護老人ホームの装飾、市内公園の花壇作成など園芸を通じた社会貢献は例年行っていたが、新型コロナウイルスの影響で一部中止になったものもあった。

学生のボランティア活動については、特に学校側から紹介することはないが、学生からの希望があれば積極的に支援していく。

職業訓練については令和2年6～8月、令和3年1～3月の2講座開講した。

②今後の改善方策

これまで実施した講座や教育(職業)訓練は園芸を通じての社会貢献という点では一定の効果は上がっていると考えられるため、今後も継続していく。職業訓練についても次年度以降も継続的に企画提案する予定である。

学生のボランティアについては学校からの情報提供を増やせるようにしたい。

③特記事項

--